

国際理解教育/開発教育 学習指導 (活動) 案

【実践者】

授業者氏名	越智 由佳	学校名	愛媛県立土居高等学校
教科 (科目)・領域	コミュニケーション英語 II	対象学年 (人数)	2 年 A 組 (28 名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2020 年 7 月～ 10 月 (6 時間)		

【実施概要】

1. 単元名(活動名) : Lesson 1 Water Crisis 1 / Lesson 6 Virtual Water					
2. 実践する教科・領域： 【コミュニケーション英語Ⅱ】	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：					
・【コミ英Ⅱ】「水に関する課題」について、英語で情報や考えなどの概要や要点を的確に理解し、これらを活用して適切に表現できる力を養う。 ・水に関するワークや、ルワンダの少年の生活を知ることを通して、水問題に対する関心を深め、自分たちの生活の中でできることを考える。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	水問題に関する英文の中の語彙や表現の理解を深め、文を適切に理解する。			
	②思考力、表現力等	水問題について学んだことを踏まえて、自分の意見を表現する。			
	③学びに向かう力	英文を読むことやワークなどを通して、水問題に対する関心を深め、自分たちの生活の中でできることを考える。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 ・社会課題の中でも生命の維持に不可欠な「水」の問題を取り上げて、英語の学習と国際理解教育に取り組ませたい。また、英語を学ぶことを通じて、社会課題についても考えるきっかけとしたい。 【生徒観】 ・今年度から始めて受け持つ生徒たちで、あまり国際理解教育は受けたことがなかったようである。SDGs については何度か授業の中で触れてきた。昨年度から同じクラスの生徒がほとんどであることもあり、話しやすい雰囲気のあるクラスである。 【教材観】 ・社会課題を扱う英文を読みながら、持続可能な社会についても考えることのできる教材を選んでいる。〔教材「読解力と表現力を高めるSDGs英語長文-Think, Share, Act-（三省堂）」〕 【指導観】 ・卒業後は、地域の基盤産業である紙製品の製造に関する工場に就労する生徒が、毎年約7割を占める。紙製品の製造過程は、環境への負荷が高いが、「企業城下町」となる地元ではその意識が低い。地域を支える彼らの意識の中に、「持続可能な社会の創り手」である自覚と、社会課題についての関心やそれらに向かう力を芽生えさせたいと思いながら指導している。 ・英語力は極めて低く、中学の既習事項が理解できていない生徒も多い。中学の復習をしながら高校レベルの英語にも触れられるように指導している。				

7. 単元計画（全 6 時間）			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	Lesson 1 Water Crisis ・インドの水不足について書かれた英文を読み、課題に関する自分の意見を表現することができる。	・SDGs についての動画を視聴する。 ・生徒たちが持っている水のイメージを共有する。（テキストマイニング） ・教材の中の写真を英文で表現する。（ロイロノートで提出・共有） ・英問英答で理解を深める。 ・ワークショップ「めぐる水」 ・動画を見ながら本時を振り返る。	動画 外務省×SDGs 「行動の 10 年 できることから始めよう」 [JICA-Net ライブラリ] 世界につながる教室～授業で使える映像教材～(水と世界・ルワンダ・国際協力) 1. 世界をめぐる水（水の循環） 教材 「SDGs 英語長文(三省堂)」 「水から広がる学び」(DEAR) スライド第 1 回
2	Lesson 1 Water Crisis ・日本の水事情に関する英文を読み自分の生活を振り返る。 ・SDGs について知る	・世界と日本の水事情について知る。 ・英語で表現する。 ・動画を見て、感想を共有する。	動画 greenTV 「限られた水資源～深刻化する世界の水問題」 スライド第 2 回
3 本時	・SDGs について復習する。 ・ルワンダの少年の生活を知る。 ・水問題についての既習の英語の知識を使って表現する。 ・ルワンダのダニエリ君の暮らしを通して水問題に関心を深める。 ・世界で今後水が不足することを知り、自分にできることを考える。	・動画を見る。 ・Google Earth で調べる。 ・写真の様子を英語で表現する（班）。 ・動画を見る。 ・ワークシートに記入する。 ・自分のできることを各自考える。（ロイロノートで提出）	動画 「アニメでわかる SDGs 目標 6 安全な水とトイレってなに？」 (SDGs ジャーナル) 教材 世界につながる教室 授業で使える映像教材・PDF 教材 (JICA 地球ひろば) スライド第 3 回
4	ルワンダについて聞いてみよう。 ・ルワンダについてさらに関心をもち、グローバルな視野を深める。	・ルワンダについて知る。（動画）（ワークシート） ・教材を作った思いを聞く。（八星さん） ・ルワンダの現状を聞く。（富田さん） ・生徒から質問をする。（付箋使用）	教材 世界につながる教室 授業で使える映像教材・PDF 教材 (JICA 地球ひろば) オンラインゲスト 八星さん・富田さん スライド第 4 回
5	バーチャルウォーター ・見えない水の輸入について知る。	ワークショップ ・どのくらい水を使っている？ ・食べ物を生産するための水 ・水でつながる私たち	教材 「水から広がる学び」(DEAR)
6	Lesson 6 Virtual Water ・日本のバーチャルウォーターに関する英文を読み、課題に関する自分の意見を表現することができる。	・Virtual water (仮想水)について知る ・英問英間で理解を深める。 ・「世界または日本の水事情」について調べてレポートにまとめる。	

8. 本時の展開（概略）			
本時のねらい：水問題についての既習の英語の知識を使って表現する。 ルワンダのダニエリ君の暮らしを通して水問題に関心を深める。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分) 展開 (35分)	○本時の目標の確認 ・SDGs の復習 ・SDGs について覚えていますか？SDGs とは Sustainable Development Goals のことで、2030 年の達成を世界中で目指している目標のことで、持続可能な開発目標と訳されています。ここで、Development という語について考えてみましょう。・普段私たちが使っている日本語の「開発」のイメージはこのようなイメージではないでしょうか。英英辞典にはこう書かれています。つまり、ここでの開発は「人間開発」のことで、私たち誰もが内に持っている可能性を存分に花開かせるという意味です。つまり「持続可能な開発」とは、それを可能にする社会を意味します。その社会を実現するために、必要なのがこれらのゴールを達成することです。今日は、この SDGs の目標6について考えていきましょう。 ・SDGs 6 についての動画を見る。 ○ルワンダについて知る。 ・Google Earth でルワンダの位置を確かめる。 ・フォトランゲージ（4人×7班） ・各班で出来上がった英文をホワイトボードに書き、発表する。 ・SDGs は国を超えて協力しないと達成できません。日本も世界の社会課題の解決のために多くの国と協力をしています。 ・その1つ、ルワンダという国について学んでみましょう。班に1枚、ルワンダのダニエリ君の写真を渡します。この写真を英語で表現してください。テキストを見て、今までに習った語彙や表現を使つかまいません。短い文でいいので、できるだけたくさん作ることを目標にして、班に配っているホワイトボードに書き込みましょう。	・SDGs(持続可能な開発目標)から Develop の正確な意味を理解させる ・Development = the process in which someone or something grows or changes and becomes more <u>advanced</u> ・ルワンダが水問題で日本が国際協力している国の1つだということを伝える。 ・既習した英語の知識を活用して、表現する。 ・各班に小さなホワイトボードを配って、それに英文を書いておき、後で黒板に貼る。	・スライド 16～18 ・スライド 19（動画） 「SDGs 目標6 安全な水とトイレってなに？【アニメでわかるSDGs】」 ・スライド 20 ・世界につながる教室授業で使える映像教材・PDF教材（JICA 地球ひろば） ・スライド 21～28 ・写真 7 枚 ・ホワイトボード

まとめ (10分)	○世界の水問題の今後について考える。 ・これから世界の水問題がどうなっていくと思いますか。2030 年、水は足りていると思いますか。それとも、もっと水が足りなと思いますか？ ・ 40%水が足りないという予測を見せる。 ○ダニエリ君と家族の生活を振り返る。 ・ダニエリ君と家族の生活を振り返り、水問題に対処していると思うところを探して、ワークシートに書いてみよう。 ・ 各グループの意見を共有する。 (ホワイトボードを黒板に貼る) ○自分達の生活を振り返り、できることを考える。 ・世界中で水問題は深刻になるという予測や、ダニエリ君の暮らしを知りました。SDGsには、大切な2つの柱があります。 1つが、授業の最初に説明した “Leave No One Behind”、もう1つが、 “Transform”です。これは、“To completely changed…”完全に変わる、ということで、今の暮らし方を変えないと持続可能な社会にならないということです。みなさんと同じ 10 代の、スウェーデンのグレート・トゥーンベリさんは “You are never too small to make a difference ” と言っています。みなさんも、今日、家に帰って自分の生活をじっくり振り返って、自分にできることを考えて、ロイロノートで提出してください。次の時間に共有したいと思います。また、本時の自己評価を行って提出してください。	・ 予想を挙手で示してみる。 ・ ダニエリ君たちが水を大切に暮らしていることを認識する。 ・ 自分にできることを考える。	スライド 32～34 ・ ワークシート ・ ホワイトボード (各班に 1 組) ・ スライド 35～37
----------------------	--	---	---

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

【知識及び技能】

- ・ 世界の水問題に関する英文や表現を理解しているか。〔英問英答・ワークシート〕

【思考力・表現力等】

- ・ 水問題について学んだことを踏まえて、自分の意見を表現できているか。〔ワークシートにて提出〕

【学びに向かう力・人間力】

- ・ 水問題に対する関心を深め、自分たちの生活の中でできることを考えることができたか。

〔自己評価・できることをロイロノートで提出〕

10. 学習方法および外部との連携
・28 人クラスなので、普段から 4 人組×7 班で学習に取り組んでいる。しかし、感染の拡大状況によっては、班活動はロイロノートを使って行いたいと考えている。 ・昨年、JICA 地球ひろばの「世界につながる教室 授業で使える映像教材・PDF 教材」の実践授業の取材を受けたことから、教材作成した八星真理子さんと、ルワンダで水の分野で国際協力活動を行った富田美佳さんに、実情や協力活動の実際などについて話していただけることになっている。
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み
・JICA 四国と自身が所属する勉強会（S L O W S）の共催で「SDG s を学校で」というオンライン講座を 3 回シリーズで行う。最終回の第 3 回で、本授業を実践例として四国の先生に紹介する予定である。

【自己評価】

12. 苦労した点	・水は無際限に手に入るというイメージを持っている生徒が多かったので、水が貴重なものであることを伝えたかった。また、この教材を使って、英語の授業がしたいと思っていた。そのため、この教材に合う英語教材を探すことにも時間をかけた。SDG s や水問題は授業の素材になりやすいが、なぜルワンダの水事情なのかが不自然にならないように、水が地球上をめぐるっているというワークをいれるなどの工夫した。
13. 改善点	・今回、富田さん、八星さんが、zoom での遠隔講演を行ってくださった。生徒たちの関心が高まる好反応を見て、こういう機会は大切だと思いました。 ・最後、今後の取組を各自（ロイロ）で行いましたが、グループで共有をして、お互いの今後の取組を共有して話し合う時間を取ればよかったと思います。
14. 成果が出た点	・水が「めぐるもの」であり、水問題は、世界で対処しなくてはならないものだという意識が少しでも芽生えることができたのではないかなと思う。 ・水道をひねれば水が出るのが当たり前の生活を送る中で、水に対する意識があまりなかったようであるが、改めて水の大切さを意識してもらえた。 ・海外協力隊や海外で働くことに、興味を持ってもらえた。
15. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） * 生徒の感想 （原文まま）	・日本では自分たちが思っているよりも使用できる綺麗な水の量が少ないこと。水を十分に使うことができない人がいること。水不足は不足している所だけの話・問題ではなく、私達も含め地球全体の課題であるということ。水不足のために苦しんでいる人がいるということ。世界中のいろんな地域で水不足解消のために様々な取り組みがされていること。 ・実際に写真などを見て水不足は私たちからして遠い未来のことではなく同じ地球としての問題だと学んだ。 ・学ぶ前、そもそも SDGs という言葉を知らなかったが、授業によって水問題やその他の問題に切実に取り組んでいる人がいることを知ることができた。ただ、英語の授業としては特殊だったので最初は戸惑いましたが、こういう授業があってもいい、この授業で視野が広がるかもしれない、と感じるようにもなりました。 ・日本も水不足で私たちにも関係のあることだということを知りました。

	・世界には水に関する問題が多くあり、全てにおいて因果関係があるということ ・地球は海洋が 7 割だから水は無限の資源だと思っていたけど、実はそう出ないことがわかり、もっと水を大切にしようと思った。
16. 授業者による自由記述	・実際にルワンダで活動していた富田さんと、教材作成に携わった八星さんの話を聞くことで、生徒たちの興味関心が深まったと思う。実際に来ていただくことは難しくてもオンラインを活用することで、このような機会が今後も増やせるのではないかなと思う。

参考資料：

教材：「読解力と表現力を高める SDG s 英語長文—Think, Share, Act—」(三省堂)

「国際理解教育実践資料集 (初版)」(JICA 地球ひろば)

「世界につながる教室 授業で使える映像教材・PDF 教材 (JICA 地球ひろば)」

「開発教育・環境教育教材 日本と世界の水事情 水から広がる学び アクティビティ 20」

(DEAR：開発教育教材)

動画：外務省×SDGs「行動の 10 年 できることから始めよう」

greenTV「限られた水資源～深刻化する世界の水問題」

SDGs ジャーナル「アニメでわかる SDG s 目標 6 安全な水とトイレってなに？」

[JICA-Net ライブラリ] 世界につながる教室～授業で使える映像教材～

(水と世界・ルワンダ・国際協力) 1. 世界をめぐる水 (水の循環)

4. ルワンダ村落部の子ども的一天

8. 国際協力活動に取り組む人々のインタビュー

JICA 海外協力隊富田さん

☆授業風景



↑ ダニエルさんの 1 日を英文で表現してみる

☆協力隊OBの富田さんに質問する生徒



☆富田さんの話を聞く



☆ロイロノートで提出した今後の生活で取り組みたいこと



JICA net 教材活用例

この授業が紹介されています。



グーグルスライド

本日の講座で使ったスライドです。

